



第 38 号

# 千 町 田

発行元:(農)のきの郷  
安来市利弘町 922-3  
Tel/Fax:22-2580  
発行責任者:河津 一行

## のきの郷の将来を見据えて

代表理事 山本耕一

皆様のご協力を得て春作業を無事終了して7月中旬には大豆の播種作業も終えました。そして早くも水稲の早生品種は穂ぞろい期を過ぎ8月後半には稲刈りとなり、キヤベツの定植作業を迎えようとしています。

今年の通常総会の議案で「将来を見据えた新規事業と組織再編の中期プラン」として、新規農産物の導入と育苗ハウスの導入を掲げています。まず、新規農産物の導入は、今後米価が安値の転じた場合のきの郷は土地利用型農業を行わない水稲に依存する所が大きいため水稲収入は2割程度減じるものと考えています。これを補填するために高収益な新規農産物を導入することが必要です。新規農産物としては、現在の時点では「ブドウ」と「いちご」を導入することで検討を進めていきます。

米が安値に転じる要因として、人



口減少に合わせ少子高齢化が進み米の消費量は毎年10t単位で減りつつある中で外国から安い米が輸入されている実態があります。行政は主食用米の生産調整を止め、飼料用米を作付することで主食用米の需給安定に向けて転換を進めています。しかし米価が堅調なため主食用米の需要の大きい産地では飼料用米をやめて主食用米の作付けを増やしており、このままではバランスが崩れ安値に転じるものと考えられています。



育苗ハウスの導入については、のきの郷ですべての水稲育苗を播種から育苗まで取り組み、密育苗苗が可能な施設とし種苗費を大幅に削減することが目的です。密育苗育苗ハウスを導入し播種から育苗を一貫して機械化することで苗への



## 田んぼの様子

の灌水作業、苗の引取作業などを簡略することが出来、また昨年導入した密苗仕様の田植機で10a当りの苗箱数は3割強削減の見通しが出来たので苗箱数の削減も可能となりました。

大豆はすくすくと伸びています。トマトはハウスの中でそろそろ赤格的に収穫が始まるようです。

田んぼも今夏真っ盛りです。早生品種のつや姫、コシヒカリは穂首を垂れ始めました。WCS(飼料用稲)は収穫真っ最中です。田んぼの中に次々とロールが出来上がっています。



- 6月3日 東洋フイス
- 7月12日 島根認定農業者
- 7月17日 米子淀江地区 ネットワーク 視察
- 7月22日 隠岐の島町 認定農業者会 視察
- 7月24日 広島経済大学 農業公社 視察

いらっしゃいませ

# 第7回きてこしない祭り

7月14日(日)に『第7回きてこしない祭り』を開催しました。天気予報を見るたびに雨が降るのか、曇りなのかと気をもんでいましたが、当日は朝のうちの雨もやみ曇り空の中開催することが出来ました。

お楽しみの大抽選会が始まりました。皆さんの手元には何が届いたでしょうか。例年抽選会は、組合員さんのみを対象としましたが、今年は3町内全戸を対象としました。組合員外の方で一部手違いがありお知らせが

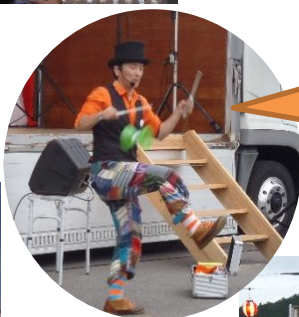
オープニングから始まり、今年もおれんじさんに大道芸を披露していただきました。そして、各町内から出場いただきカラオケ大会を開催しました。今年は中学生の参加もありより一層盛り上がりました。そしていよいよ



山本代表理事挨拶



カラオケ大会最優秀賞 島田さん



技が決まる おれんじさん



特別賞の二人



## 導入機械紹介

6月にドローンを導入し、3人の方が技能講習を受けて操縦の認定を受けました。おもな用途は、薬剤散布をはじめとして肥料散布、そばなどの播種として使用します。管理機で入りづらかった圃場への処置や作業時間の短縮などで利用が増えます。なお、管理圃場以外の畑周辺や民家周辺での作業の際は、回覧などで周知を図りますのでご理解とご協力をお願いいたします。



ちよこし聞いて

よく晴れた春が過ぎ、あまり雨が降らない梅雨がようやく開けたと思えば、酷暑の夏がやってきました。「暑いね」気を付けて仕事しないやが合言葉のようになっていきます。暑い中での作業で体調を崩さないよう注意してください。(お)

